

取手市男女共同参画情報紙

- No.52 -

3.1

2024(令和6年)

風

【男女共同参画標語】

最優秀賞

「それぞれの個性が活きる わが取手」 杉山 かおり さん

優秀賞(5点中2点を紹介)

「お互いが 社会の大事な パートナー」 阿部 二葉 さん

「支え合う 一人一人が 違うから」 稲毛 天咲 さん

身近な災害に学ぶ



牛久沼

地球温暖化の影響が異常気象が多くなり、『稀にみる』という言葉がつくニュースが増えました。取手市でも令和5年6月2日から3日にかけて梅雨前線及び台風2号に伴う大雨があり、2日間で6月の降水量(平年値)の約2倍にあたる286ミリもの降雨量を記録しました。

市内では床上・床下浸水、土砂崩れ、倒木、道路の冠水による通行止めなどの被害がありました。被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。遠く離れたところの災害でも心が痛むのに、身近で起こった災害に対し、わが身に置き換えて心配している方も多いと思います。今後の心構えにもなるように、今回特に大きな被害を受けた取手市双葉の自治会の皆さんにお話を伺いました。(河口)

双葉地区は南を小貝川、北を牛久沼に挟まれ、周りを豊かな水田に囲まれた住宅地です。団地中央が南北にやや低くなっている地形のため冠水することがあり、大雨の際は雨水をポンプで排水路に汲み上げ、農業用水路を経由して2か所ある排水機場から小貝川に放出していました。今回は短時間に大量の雨水が周辺より流れ込み、排水機場の排水が追いつかず団地内の約半数にあたる324軒が床上、240軒が床下浸水しました。

被害の知らせ(中尾さんの場合)

自治会長の中尾さんは早朝消防団から「団地内にある幼稚園周辺に水が出ている」との知らせを受けました。現場へ様子を見に行くと、既にひざままで水が来ていて消防士がボートで被災者を救出しているところでした。自治会館を避難所として開放しましたが、災害備蓄品は無く急いで市に食料や飲料水などを要請しました。

早めの避難(若林さんの場合)

以前から大雨が降ると冠水して車が出せなくなることがあるという若林さんは、今回も線状降水帯が各地で発生するという予報を受け、2日夕方から家族でビジネスホテルに避難しました。3日朝、友人からの電話で自宅の被害を知った若林さんが翌日に帰宅すると、床上に50cmほど浸水した跡がありました。2日間水につかった1階の絨毯や家具は手に負えない状態でした。行政や社会福祉協議会の視察を受けた際も頭が混乱していて、慰問も兼ねて市長が来訪されたことにも後から気が付いたほどでした。自治会の対応が早く安心感につながったことに加え、知人に勧められて常総市での水害被災地支援経験のある茨城NPOセンター・コモンズ^(※1)の方からのアドバイスが参考になりました。被災後の流れや注意すべきこと(罹災証明や家の乾かし方、業者発注のポイント)などの話を聞くことができ、前向きに考えることができました。

自治会として(佐藤さんの場合)

電気やガスが止まった住宅も多く、浸水した道路は蓋のない側溝や段差のあるブロックなど日ごろから道をよく知っていても危険な状態でした。その状況の中、佐藤さんは他の役員と共に炊き出しのおにぎりを作りボートで届けて回りました。団地内の被害の少なかった方たちがボランティアとして集まり、心強く支えてくれました。垂直避難している人たちが取り残されることのないように物資を届けるとともに、少しでも安心につながるようにと、新しい情報を次々と印刷して配りました。

垂直避難(上平さんの場合)

上平さんは3日の午前3時ごろに異状を感じ、外の様子を見ようと玄関を開けたところ水が流れ込んできたため、すぐに2階に避難しました。床上浸水し、漏電により電気が使えず携帯電話の充電もできませんでした。危険な地域という認識は常にあったため食料などは備蓄していましたが、自治会から届く印刷物の情報に住民のつながりを感じました。

車の被害

屋内の被害は無くても屋外では庭や駐車場まで浸水した住宅も多く、車が使えなくなったり修理が必要となった方も多かったようです。そんな中、自治会に(一社)日本カーシェアリング協会^(※2)より車両の貸出しの申し出があり、使ったガソリン代のみ負担で、4か月間利用しました(6月中旬から10月末まで18件、のべ日数1164日)。通勤で長距離を走った方や住民の足として、ほぼフル稼働でした。協会側も自治会に業務委託したのは初めてのことで、自治会長の中尾さんも利用しとても助かったそうです。(河口)

Interview

双葉自治会の皆さん

左から 近藤邦博さん(役員)

若林晶子さん

上平れき子さん

中尾早苗さん(自治会長)

佐藤里香さん(役員)

2つへつづく

教訓

双葉自治会は、自治会館の維持管理や地域交流などに会費が使われています。平時の自治会活動は草刈り清掃などの環境美化事業、防災事業、行政や自治会文書の配布回覧等の情報共有です。今回の内水はん濫^(※3)では、消防団や専門知識のある方々、多くのボランティアの迅速なご支援を頂きその助けが必要であることを痛感しました。自治会は住民と行政、支援団体とのパイプ役を果たすことが求められましたが、その中で新たな課題も見つかりました。

近藤さんは「今後も高齢化が進む中、住民が穏やかに暮らしていけるようお互いが助け合い、自治会組織をしっかりと残し、行政と連携して今回の経験とノウハウを次の世代へ伝えなければならないが、若い世代が減少するなかで課題は多い」と語りました。(河口)

自助

- 双葉自治会の皆さんは、個人の備えとして次の三点が特に重要だと指摘しています。
- ① 住んでいる場所のリスクを知ること
 - ② 最低3日分の食糧と水を備蓄し、簡易トイレと携帯電話の充電ができる環境を準備すること
 - ③ 防災無線が聞こえにくい人は、防災ラジオ^(※4)を借り受けること

共助

普段から隣人を知ること、災害時にも誰がどういう状態か、何が必要かを知ることができ、それが人命救助にも繋がります。また、携帯電話で友人と安否確認を取り合うことやボランティアの助けを受けることで、心理面でも自分はひとりではないとの安心感や前を向く勇気が生まれます。今回の水害でも社会福祉協議会が窓口となり学生や特殊技術(建築関係など)のある方を含め数多くの外部ボランティアが駆け付けました。

公助

行政に対しては、今後の被害防止対策とともに、住民に寄り添った相談など平穏な生活を送るための支援が求められています。また、双葉地区周辺住民への地域防災情報の提供などの要望も挙がっています。

【防災・減災を考える「自助」「共助」「公助」は、当紙「風」47号(2020.3.1)で取り上げています。紙面右下のQRコードからバックナンバーにアクセスできます。】(河口・糸井)

ボランティアセンター



▲取手市災害ボランティアセンター(取手市社会福祉協議会)

取手市社会福祉協議会では近隣の社会福祉協議会の応援を得て、6月5日より7月3日まで取手市災害ボランティアセンターを開設し、延べ383件のニーズに対応、1,000人以上のボランティアが活動しました。希望者は事前登録し、ボランティアセンターでのコーディネート後に現地入りし、使えなくなった家財の搬出や清掃をしました。

また、商工会青年部などが町内を巡回し災害ごみの搬出入を行うなど多くの方々の御協力がありました。

※1 認定NPO法人 茨城NPOセンター・ commons 水戸市に本部を置き、2015年に常総市で起きた水害への災害復興や多文化共生に取り組んだ経験から、今回被害を受けた双葉地区でも自治会と連携し復旧・復興支援を行いました。

※2 一般社団法人日本カーシェアリング協会 東日本大震災で6万台の車が被災した宮城県石巻市で全国から寄せられた車を使った助け合いから生まれた仕組みで、災害時に車で困らない助け合いの輪を広げています。

※3 内水はん濫 河川から堤防で守られた人が住んでいる場所にある水を「内水(ないすい)」と呼びます。取手市では、令和3年度までの過去10年間に市内で内水はん濫が発生したと通報のあった場所などを示した取手市内水実績ハザードマップを作成しています。



▲取手市内水実績ハザードマップ

※4 防災ラジオ 取手市役所安全安心対策課に申し込むと負担金2,000円で貸与できます。通常はAM、FM放送を受信でき、市が発信する緊急情報を受信すると防災無線と同様の放送が流れます。



▲防災ラジオ申込受付

連載企画

おさんぽ とりでOh!散歩

— NO.4 —

「甚吉邸」(国登録有形文化財)

岐阜県の実業家渡辺甚吉の私邸が、1934年(昭和9)東京都港区白金台に建設されました。その主屋は、イギリスのチューダー王朝期に流行した建築様式(チューダー様式)を採用しています。

柱や梁などの木骨を露出させ、その間を白い漆喰壁で埋めた外観が特徴です。そして、部屋ごとに多様な様式を取り入れた装飾は、昭和初期における日本住宅建築の傑作とされています。

そんな甚吉邸が2016年、取り壊しの危機を迎えます。しかし、研究者や有識者から保存の声が上がり、2022年(令和4)3月に市内の前田建設工業株式会社IC1総合センター内(取手市寺田)にガレージ、門扉の一部とともに移築・復原されました。

見学のポイントは、一階の食堂天井のレリーフ(浮き彫り)。壁から天井まで淡い色彩で統一された2階の主寝室。「泰山タイル」や「今和次郎による装飾品」。

2023年(令和5)2月に甚吉邸が国登録有形文化財に登録されました。市内では初めての国登録有

参加レポート

ひとひと 女と男ともに輝く とりでの集い

令和5年11月12日(日)福祉交流センター

毎年秋に開催される『女と男ともに輝くとりでの集い』は、互いに尊重し、支え合い、誰もが生き生きと輝ける社会をテーマに、イベントを通して楽しみながら考え、学ぶ場を提供しています。

今回のテーマは、「未来へ輝く取手人」。市内で活躍する団体・個人の活動が紹介されました。

形文化財となります。一般公開^(※)が所有者の前田建設工業株式会社の主催により、令和5年11月に実施されました。参加費は無料ですが、事前予約制となります。是非、訪れたい取手市の新名所です。(落合)



(※) 今後の一般公開については前田建設工業(株)のホームページを直接ご確認ください。

まず、メディアクリエイター吉尾崇氏編集のイメージ動画が、取手の過去・現在・未来をフラッシュバックさせ、変わりゆくもの(街並み・生活)と変わらないもの(人の心・絆)について問いかけてきます。

取手市の発展とともに過去から現在へ活動が続けてきた「レディースフォーラムとりで」と「茨城南青年会議所」は、それぞれ男女共同参画社会の推進、明るい豊かな社会の実現を目的とし、未来へ向けて歩み続けています。

防災の啓発活動を行う「取手市女性消防分団」と若々しく健康でいるための体操を考案した気功的ヨーガ・インストラクター岸裏典子氏は、災害や高齢化という迫り来る問題を取り上げつつ、身近で役立つライフハック^(※)を伝授してくれました。

取手聖徳女子高等学校の「取手ひまわりプロジェクト」(遊休農地を利用した製品開発)と吹奏楽部の演奏、ガールスカウトのカフェなど、若い人たちの活躍にも未来の輝きを感じ、世代を超えて人として輝くことの意味を考えるイベントになりました。(下園)



▲男女共同参画イベント「第25回女と男ともに輝くとりでの集い」を開催しました



(※) 生活や仕事の日常的な課題を解決し効率を上げるためのアイデアやテクニックのこと。

編集後記

会社を退職後、しばらくして「きょういく」と「きょうよう」の言葉とその意味を知り、週や月の予定を埋めてきました。昨年後半からは、アルバイトが加わって、密になり、医者通いが入ると、日々の時間管理の重要度が高まり、スマホのスケジュールが大いに役立っています。今後も健康を維持し、充実した1日を楽しめればと思う今日この頃です。(糸井)

発行日 令和6年3月1日
 編集発行 取手市 市民協働課 / 下園淳子/河口優子/落合伊佐男/糸井弘
 〒302-8585 取手市寺田5139
 TEL 0297-74-2141/FAX 0297-73-5995
 Email s-shien@city.toride.ibaraki.jp
 https://www.city.toride.ibaraki.jp 表紙絵 有本 唯



「風」バックナンバー